

## ◎ダイアート錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 アゾセמיד azosemide 【分類】 ループ利尿剤 [持続型]

【単位】 ◎30mg・◎60mg/錠

【常用量】 60mg/日

【用法】 分1

【透析患者への投与方法】 無尿患者には禁忌 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要がないと思われるが腎不全患者の投与方法に言及した文献なし (5)

【特徴】 長時間作用型のループ利尿剤。電解質バランスが崩れにくい。慢性心不全や慢性腎不全などの浮腫のある慢性疾患に長期投与可能。心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫に適用される。

【主な副作用・毒性】 発疹、肝障害、高尿酸血症、低K血症、腎障害、血小板減少、めまい、頭痛、消化器症状など

【F】 初回通過効果を受け 20.4% (Suh OK, et al: Biopharm Drug Dispos 24: 275-97, 2003)

【tmax】 3~4hr (1)

【代謝】 肝、グルクロン酸抱合により代謝 (Suh OK, et al: Biopharm Drug Dispos 24: 275-97, 2003) 尿中回収物は、未変化体、酸化的脱テニル体、グルクロン酸抱合体 (1)

【排泄】 尿中回収率 4%、糞便中回収率 71% [po] (1)

【CL】 0.089L/hr/kg [iv] (1) 全身 CL 112mL/min, 腎 CL 41.6mL/min で尿細管分泌される (Suh OK, et al: Biopharm Drug Dispos 24: 275-297, 2003)

【t1/2】 2~3hr (1) 2hr (Suh OK, et al: Biopharm Drug Dispos 24: 275-97, 2003)

【蛋白結合率】 94.5~95.9% (1)

【Vd】 0.262L/kg (Suh OK, et al: Biopharm Drug Dispos 24:275-97,2003) 19.43L/man [iv] (1)

【MW】 370.84

【透析性】 蛋白結合率が高いため透析では除去されにくいと思われる (5)

【TDM のポイント】 治療に有効な血中濃度は約 20ng/mL と推察 (1) 尿細管管腔内で作用するため、血中濃度と利尿・降圧作用とは関連しにくく TDM の対象にはならない (5) 【O/W 係数】 pH 依存 (1) 【pKa】 3.69, 10.14 (1)

【相互作用】 昇圧アミンの作用減弱 (1) 降圧剤の作用増強 (1) アミノグリコシド系抗生物質、シスプラチンと聴覚毒性の増強 (1) 低 K 血症による影響 [ジゴキシン] (1) リチウムの再吸収亢進 (1) サリチル酸の排泄阻害 (1) NSADIs が利尿作用を減弱 (1)

【備考】 長期投与により高尿酸血症、高脂血症、耐糖能異常などが起こることがある。

【更新日】 20180711

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。